



この度、念願の「モヨ・チルドレン・センターを支える会」を高塚政生氏が立ち上げてくださることになりました。以下、高塚氏の趣意書及び会則を掲載いたします。

「モヨ・チルドレン・センターを支える会」 の発足に向けて

高塚政生

私は、1995年に、縁あってウガンダの地を踏み、約三年滞在しました。それより一年前、既に照美さんは、ウガンダに来られて居りました。これ又、縁あってその照美さんと袖触れ合いました。

私の師の一人深津文雄牧師は、「底点の思想」をお持ちでした。底辺ではなく、その中の更に底＝底点の底上げが出来れば、世界平和の一助になる、というお考えで、ウガンダの人々に思いを馳せました。

照美さんは、諸種の条件から、現在ケニヤにての活動に取り掛かりました。氏は、日本に一時帰国されると、必ず私の所に寄り、現状報告して下さることが数年に及びました。2004年1月2日になって、初めて私の方がケニヤのティカを訪問致しました。私は、これを読む皆さんが感じたのと多分同じ様に、氏の熱意に絆されたのでしょう。氏の活動を支える会を発足させる決心を致しました。

私自身は、ウガンダの人々に思いを馳せていますが、照美さんの原点もウガンダであり、ケニヤはその隣国。何の違いがありましようか。縁あって識り合えた東アフリカの人々への協力が、少しでも安定したもの、短期間で終わらないものとしての一助になれば、と考えました。併し、何れの日にかその協力活動が、ウガンダへも波及することを望みつつ、一步一步踏み固めるよう努力したいと考えています。

憲法修正の動きが一段と現実味を帯びる世情の中、私達一人一人が、他の国に顔の見える友人、知人を持つこと、世界の富の再分配の不公正さに個々人が気付き、自らが少しでもそれを是正することで、武力でなく、文化力でより良い人生をお互いが送れる様微力を尽くしたいものです。

松下照美氏が、活動に専念できるよう支えたいと考えます。私は、あくまで日本における仲介者という立場です。今まで、氏にご協力された方々も、これからご協力しようという方々も、是非ご入会戴ければ幸甚です。

連絡先：愛媛県伊予三島市豊岡町大町 2540 - 112
Tel/Fax 0896 - 25 - 0646 携帯電話 /090-11715632
E-mail/tmasao@d1.dion.ne.jp

「モヨ・チルドレン・センターを支える会」発足にあたり、感謝とお願い

この度、10年来の良き助言者 高塚政生さんが「モヨ・チルドレン・センターを支える会」を発足して下さいになりました。念願の会員制度導入が、高塚さんのご尽力で今実現することになり、感謝にたえません。思い起こすとアフリカでもう10年、遅々とした歩みではありましたが、全国の多くの方々に支えられながら私なりに歩んできました。今回の「支える会」発足を機に気持

ちも新たに次なる10年に向けて更に活動に専念する所存です。今まで暖かく見守りご支援くださった皆様にはこの場を借りて改めて感謝を捧げると共に、この「モヨ・チルドレン・センターを支える会」を通じて、今後とも引き続きご支援頂けますよう、心からお願い申し上げます。加えて新しき出会いを頂ければと楽しみにしています。

モヨ・チルドレン・センター主宰 松下照美

「モヨ・チルドレン・センターを支える会」会則

名称

第1条 本会は、「モヨ・チルドレン・センターを支える会」と称する。

事務所

第2条 (1) 本会の事務所は、右記に置く。 愛媛県伊予三島市豊岡町大町 2540 - 112
(2) 必要に応じて支部事務所を置くことができる。

目的

第3条 本会は、松下照美氏の主宰する「モヨ・チルドレン・センター」の活動が、安定的且つ長期的となるよう支えることを目的とする。

会員及び会費

第4条 会員種別及び会費は、次の通りとする。 ウガンダ・ケニアの会員

- | | | |
|--|--------------|-----------|
| (1) 正会員： 個人会員 | 年会費 6,000 円 | 4,000Ksh |
| 法人会員 | 年会費 20,000 円 | 13,000Ksh |
| (2) 賛助会員：個人会員、法人会員共に | 年会費 3,000 円 | 2,000Ksh |
| (3) 学生会員：短大、大学等（中、高生を含む）で学ぶ者で、現地活動に寄与する者 | | |
| (4) 特別会員：「モヨ・チルドレン・センター」を通じて既に奨学金援助をしている個人及び法人 | | |

※郵便振替口座 口座名：モヨ・チルドレン・センターを支える会 代表者：高塚政生

郵便振替口座番号：01660-1-73996

※ケニアの銀行口座 Standard Chartered Bank Muthaiga Branch

A/C Name: MOYO CHILDREN CENTRE A/C No.:01020 18762800

役員

第5条 この会には、次の役員を置くが、会員相互は、常に同格とする。

- | | |
|-----------|-------|
| (1) 代表 1名 | 高塚政生 |
| (2) 会計 1名 | 福田えり子 |

入退会

第6条 (1) 会員の入会については、年会費を納めた時点とし、その後本人の申し出があった場合、或いは、二年以上の会費未納の場合に、退会するものとする。但し、会員が本会の目的を逸脱した行為を行なった場合には、除名することができる。
(2) 年度途中の入会を含め、毎年4月を、会員登録更新の時期とする。

現地活動

第7条 会員として、現地での協力活動を希望する者は、「モヨ・チルドレン・センター」主宰に申し出、その許可を受ける。

特典

第8条 (1) 会員は、「モヨ・チルドレン・センター」の発行する機関誌を無料購読することができる。
(2) 会員は、「モヨ・チルドレン・センター」主宰の報告を直接受けることができる。

会計年度

第9条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年の3月31日までとする。

附則 この会則は、2004年4月1日から施行する。

●「キャンペーン」帰国のお知らせとお願い

この度8月中旬～9月末に当モヨ主宰の松下が「モヨ・チルドレン・センター建設の協力お願い」のキャンペーンのため一時帰国します。これには役員のリョージ・オワデも同行する予定です。

一ヶ所でも多くの所で、一人でも多くの方々に
お会い出来れば幸いです。是非声をおかけください。
(連絡は1ページ「支える会」高塚さんへ)
詳しい日程に付いては次号でお知らせします。

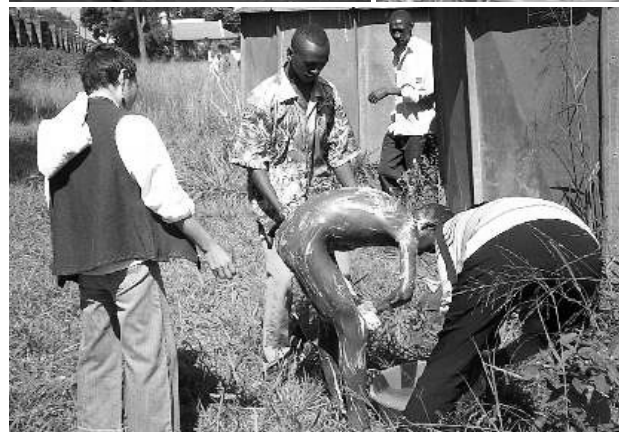
ストリートの子も達の 支援活動 ～ティカ・スタジアムにて～

10年前、初めてウガンダに一步を踏み入れた時に出会ったのが、元ストリートチルドレンと呼ばれていた子ども達でした。その子ども達が私がアフリカに住むことになった原点です。彼達も今はもう大人になり、色々の問題を抱えながらも彼らなりの人生を歩んでいます。諸種の事情から現在はケニアを中心に活動していますが、ここでもストリートチルドレンと呼ばれる子ども達のことはいつも気になっていました。ティカで活動を始めた時も、シンナーを吸いながら路上に横たわっていたり、物乞いをしたり、盗みをしたりしている彼達にどうにかして関わりたいと思いつつ、きっかけが掴めずにいました。ところが昨年暮れ、ふとした縁で、直接彼達と関わる活動をする事ができることになりました。

現在は月、水、金曜日の午前10時～12時、ティカの街の中心にあるティカ競技場の片隅の小さな事務所を拠点にして、ローカルNGOや教会の方々と協力しながら、身体を洗うこと、汚れた衣類の洗濯、週1回の果物の支給等を中心に活動しています。集まってくる子ども達は7、8才～上は25才の大人まで、中には赤ちゃんを連れた若いお母さんもいます。人数はというと14～15人から時には30数人（昨年の行政の調査時にはティカの街では187名がストリートチルドレンとして登録されていますが、実数、背景共にまだ不明の部分が多いのが実情です）。彼らのほとんどがシンナーの入った容器



器を口にくわえながら集まって来ていて、中には会話も出来ないほど酩酊状態の子もいます。このシンナーをどうやって止めさせるかが目下の一番の問題です。たった一人シンナー



を止めたことが確認されている22歳の若者と16歳の若者を当モヨの支援で職業訓練校に通わせることにしたのですが、このことがきっかけになって一人でも多くの子どもがシンナーを吸うのをやめ、家庭に、学校に、地域に戻ってくれたらと願っています。試行錯誤しながらの活動ですが、根気よく彼達と共に歩みたいと思います。

（松下）

ティカの街で “またまた松下さん新しい試み”に“エール”

シンナーに依存するストリートチルドレンが99%、その子達がスタジアムに週3回集まってくる。一様に明るい笑顔が素晴らしい！！でもシンナーで？いや違うと思いたい。子ども本来の人懐こさであればと願いたい。松下さんは散髪も試みていた。子ども達は今では松下さんに甘えて少しでも伸びると刈って欲しいと来る。スキンシップで愛の伝達ですね、スゴイの言葉しかありません。今度試みるのは清潔にと言うことで全身石鹸を使い洗う。大丈夫なのかなー？心配は無用でスタートはマズマズ。これで一步、その次は何？シンナーで歯、頭が完全に駄目にならない前に良い方向へ行ければと思い願いながらティカより日本に戻りました。またケニアで活動されている松下さんの努力に合掌そしてエネルギーを有り難う。久志本恵子













一年でもっとも忙しく、またその分、喜びを分かち合える時。

新しく支援を始めた子ども達

1月から2月にかけては、新しく学費支援を始める子ども達の面接調査と合否判定の時期だ。時には子どもと親、又は小学校の校長と一緒に新しい高校まで送っていたりすることもあり、最も忙しく、又頭を悩ませ、その分喜びを分かち合える日々が続く。子どもの案内で畑の間の細い道を歩いていくと、トタンの屋根と壁の家があり、その薄暗い家の中で少年が将来の夢を言葉少なに語り、校長先生が何やら声高に話して聞かせ、赤ちゃんをあやしながら母親がそれに答える。缶に小さな灯心を出しただけのランプが机の上にあった。外では犬と鶏が走り回り、帰り際に父親が産み立ての卵を持たせてくれた。バッテリー充電屋さんの父親は息子の売り込みから高校へ持って行く荷物の用意にと走

り回り、とうとう足りなかった教科書等はモヨに買わせるという教育パパぶりで、その横でいつものんびりと控えて目にしてきた少年は、ティカで第2位という今年の受験生の中でも高得点者だった。授業が始まってすでに2週間以上過ぎた2月の半ばに依頼されたサミュエルの場合はすでに18才だが小柄な少年で、15才くらいから砕石や畑仕事で稼ぎ、8年生をもう1回やり直し高得点を得てようやく高校への道を自ら開き、周りの多くの大人達の力添えでようやく入学を果たした。

このように校長や教頭の力の入れ方で子どものいく道が決まる場合も多々見られた。今年は8人の新高校生と3人の養護小学生、2人の職業訓練校生を加え、受け入れ全体では27人になった。(ISA)

新しく学費支援を始めた子ども達 名前・年齢・学校・コース・学年 ※ジョイタウン小学校・・・知的・身体的障害者のための小学校	 Muthoni Samuel Kirira ムゾニ・サムエル (18才) GAICHANJIRU HIGH SCHOOL 1年生	 Wanyoike Henry Njenga ワニョイケ・ヘンリー (15才) MUHOHO HIGH SCHOOL 1年生	 Master James Shikuku ジェイムス・シクク (16才) MANGU HIGH SCHOOL 1年生	 Kamau Keziah Muthoni ケジア・ムゾニ (14才) CHANIA GIRLS' HIGH SCHOOL 1年生	 Kitavi Anthony Kiilu アントニー・キイル (15才) KIRWARA HIGH SCHOOL 1年生	 Mohammed Kimani Gachoka モハメッド・キマニ (16才) CHANIA BOYS' HIGH SCHOOL 2年生
	 Harun Maina Mwangi マイナ (19才) S. A. JOYTOWN SECONDARY SCHOOL FOR PH 2年生	 Alex Wambua アレックス・ワンブア (17才) S. A. JOYTOWN SECONDARY SCHOOL FOR PH 1年生	 Francis Mwangi フランシス・ムワンギ (23才) THIKA YMCA COLLEGE Motor vehicle mechanic cause 1年生	 Moses Njau モーゼス・ンジャウ (16才) THIKA YMCA COLLEGE Motor vehicle mechanic cause 1年生	 Kevin Maina ケヴィン・マイナ (7才) S. A. JOYTOWN PRIMARY SCHOOL Special C class	 Peter Nganga ビーター・ンガンガ (9才) S. A. JOYTOWN PRIMARY SCHOOL 1年生

モヨ通信 4号 ('04 7月発行予定) 予告

- NGO ビューローへの年次報告を経て、2003年度の会計報告を次号にていたします。
- 今号では紙面の都合により、「私が出会った子どもたち」「ケニア・ア・ラ・カルト」をお休みしました。次号は掲載予定です。お楽しみに。

編集後記

◎アフリカで10年。今年は節目の年になりそうです。(テル)
 ◎モヨの活動を撮影するために2ヶ月間滞在。興味深い体験をしました。(ISA)
 ◎今回は私用に編集作業に参加出来ませんでしたが、次回以降、又、頑張ります。(優香)
 ◎時期のずれた乾季がほんの少し続いたと思ったら、もう雨が降り出してきました。どうやら雨季の到来のようです。日本は入試の時期ですね。受験生をお持ちの皆さま、健康にはくれぐれも注意されて目標達成されますよう。(英)

モヨ・チルドレン・センターの歩み

1997年11月ケニア政府大統領府 NGO ビューロー・インターナショナル NGO 登録の申請書類提出。
 1999年9月 ケニア政府より、国際 NGO として「モヨ・ホーム」、正式に認可・登録される。
 2000年10月ティカにて、本格的に活動開始。
 2001年5月「モヨ・ホーム」から、「モヨ・チルドレン・センター」に改名。

モヨ・チルドレン・センター

P.O.BOX 2712 THIKA KENYA
 TEL/FAX : 254(ケニアの国際番号)-067-22329
 E-MAIL : moyo@africaonline.co.ke
 ケニア政府 NGO 局登録番号 : OP.218/051/97223/1006
 日本連絡先 : モヨ・チルドレン・センター日本支部
 〒 211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部 1905
 青木康子 : TEL/FAX:044-433-3447
 寄付受付先 : 口座名称 : モヨ・チルドレン・センター
 口座番号 : 00230-4-71118(郵便振替)